



高知県の保護者とともに 特に育みたい資質・能力について



高知県教育委員会事務局 幼保支援課

親育ち支援で目指していること

親の子育て力の向上を図り、
よりよい親子関係を構築するとともに、
子どもたちの健やかな心と体を育てる

子どもが将来社会の一員
として生き抜いていくためには、
親や身近な大人に愛されて育つことが
必要不可欠



高知県の保護者ととともに特に育みたい資質・能力

- 愛着の形成
- 人に対する**基本的信頼感**の獲得
- 十分な自己発揮と他者の受容による**自己肯定感**の獲得
- **基本的生活習慣**の形成
- **道徳性**や**規範意識**、**社会性**の芽生え

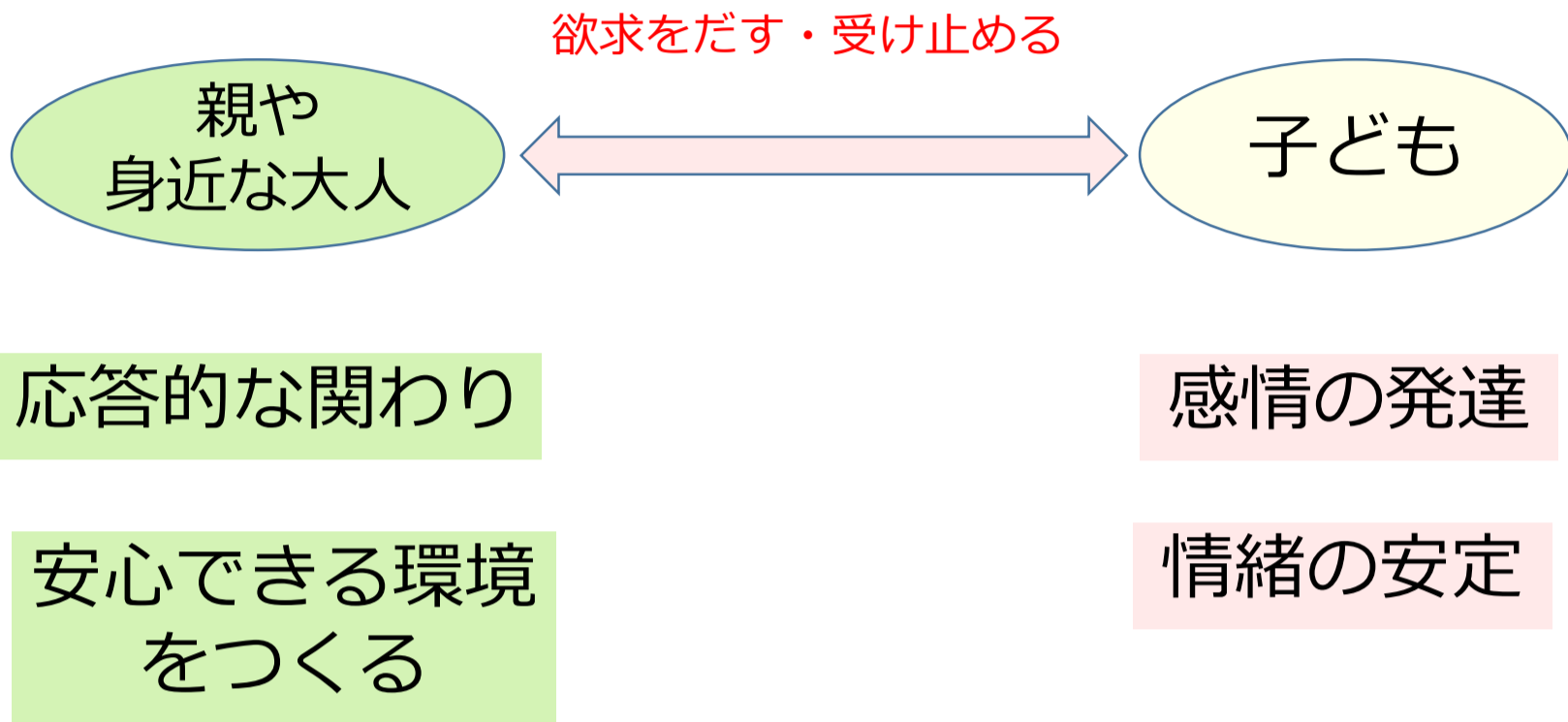
幼児教育において育みたい資質・能力の整理

中央教育審議会（第109回）配付資料（H28.12.21）



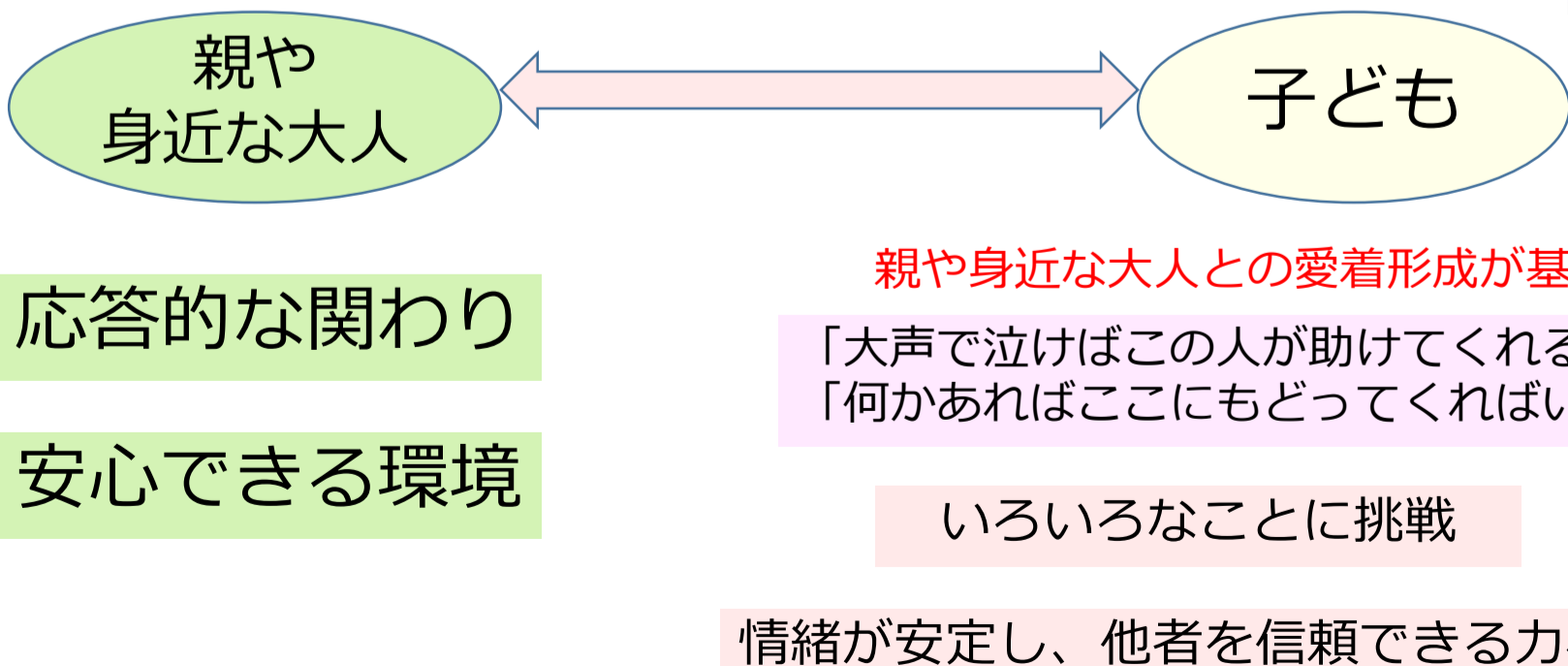
愛着の形成

愛着とは…人と人との間に生じる持続的・情緒的な絆のこと



人に対する**基本的信頼感**の獲得

大切に養育され、愛情や甘えの要求を受容してくれる養育者への信頼を通して、自分という存在を肯定的に捉え、外界は信頼に値するという感覚をもつこと



十分な自己発揮と他者の受容による自己肯定感の獲得

自己肯定感とは…自分はこれでいいんだと自分自身を肯定する気持ちのこと



ありのままの姿を
かけがえのない存
在として受け止め、
認める



親や身近な大人との愛着形成
基本的信頼感の獲得が基盤

安心した環境で自分の感情や
意思を十分に表現

どんな状況にあったとしても
自信をもち他人とも積極的に
関わる

自分はこれでいいんだという見方

基本的な生活習慣の形成



自分でやろうとする
子どもの思いやペー
スを尊重した丁寧な
関わり

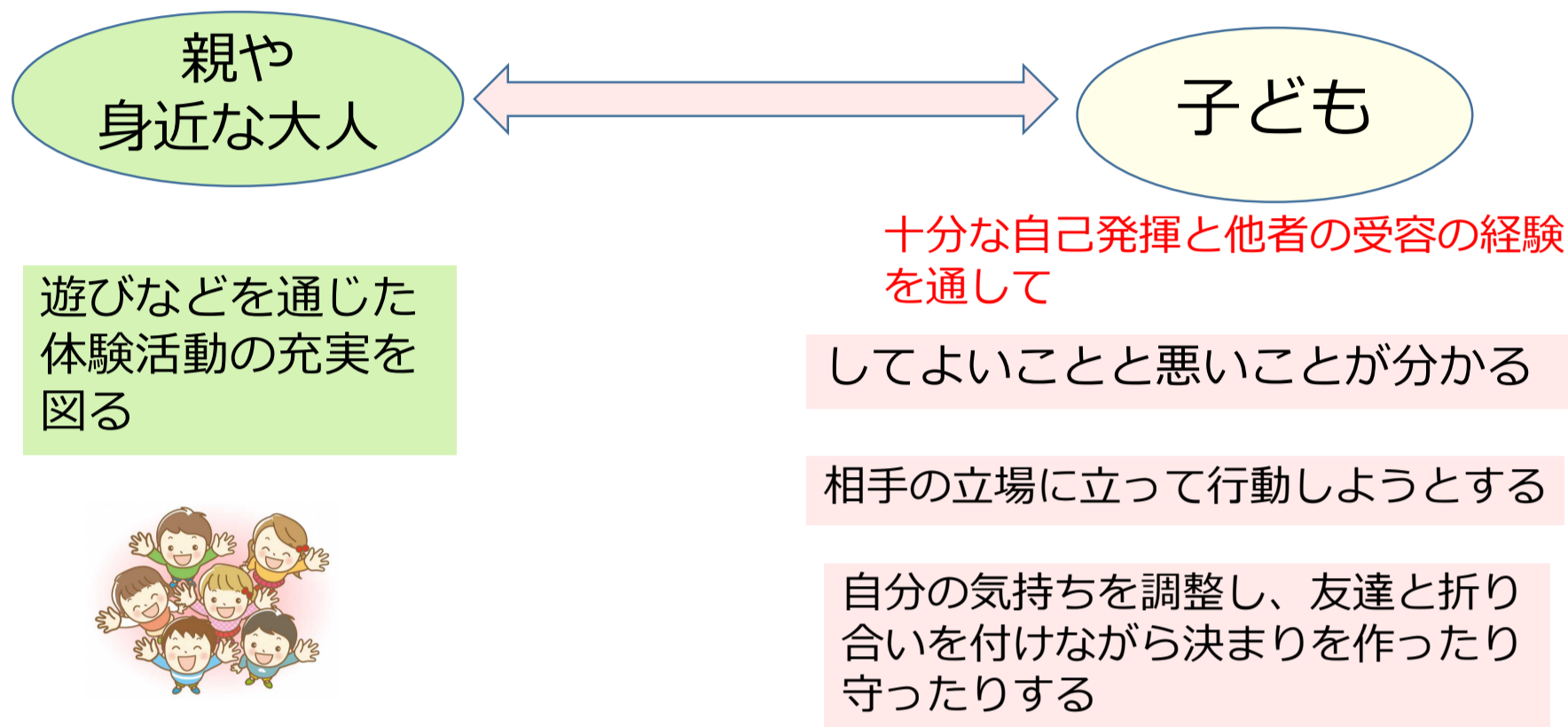
子どもが達成感や
心地よさを味わえ
るような関わり

自立心

自己発揮と自己抑制の調和の
とれた自律性

体の健康と心の安定

道徳性や規範意識、社会性の芽生え



子どもの気になる姿

- ・ 落ち着きがない
- ・ 感情のコントロールができない
- ・ 友だちとのトラブルが多い
- ・ 集団活動に適応・順応できない
- ・ ルールを守れない など

保護者とともに育みたい5つの資質・能力
その子どもにまだ十分に育っていないと思われるもの

発達の課題

原因・背景（園・保護者）をさぐる

園でできる支援（子ども・保護者）を考える

子どもの発達の課題をとらえるために

子どものよさ

保護者について

より多くの保育者の目で観察する

気になるところ

子どもらしい
考え方・感じ方・関わり方

5つの
資質・能力の中で



その子どもがまだ十分に育っていないと思われるもの = **発達の課題**

気を付けたいこと

- ・子どもの行動をマイナスとしてとらえないようにする
- ・課題は子ども一人一人異なっている
- ・発達には道筋がある（飛び越えて獲得できない）
- ・課題は重複していることもあるので、幅広い視点で考える

指導計画・園内研修の手引き
～つくろう 笑顔の輝く明日の保育～
【改訂版】



令和2年3月改訂
高知県教育委員会事務局 幼保支援課

指導計画・園内研修の手引き ～つくろう 笑顔の輝く明日の保育～ P48

事例研修 ～子どもと保護者への理解を深め、支援を探る～

【目的】複数の保育者から見た（気になる）一人の子どもの姿から、その子どもの課題、親子の背景を探り、多面的に理解を深める。また、親子に今後必要な支援を考え、それぞれの保育者の立場でできる支援と役割を明確にする。

【ポイント】より多くの情報を出し合う。その情報の中から、事実を確認していくことが大事。

【準備する物】親育ち支援実践シート・横造紙・付箋（4色）・サインペン・カラーペン等

【所要時間・人数等】1～2時間、1グループ5～6人

事前に 話し合いたい親子について、園全体で確認しておく。

★事例提供者 子どものよさ、気になるところ、課題を整理しておく。

★研修参加者 子どもの様子や保護者について、よく観察しておく。

よく砂場でBちゃんと遊んでいるなあ。



1 子どものよさ、気になる姿、子どもの課題について出し合う。（30分）

- ①事例提供者から事例として選んだ理由等について説明を聞く。
- ②子どものよさ、気になる姿について、それぞれ付箋や口頭で出し合う。
- ③子どもの発達の課題を考える。

※出てきた意見は、横造紙等に書き起こすなど整理し、可視化していく。

2 子どもの課題から、子どもへの園での関わりや保護者との関わりで考えられる原因・背景を考える。（30分）

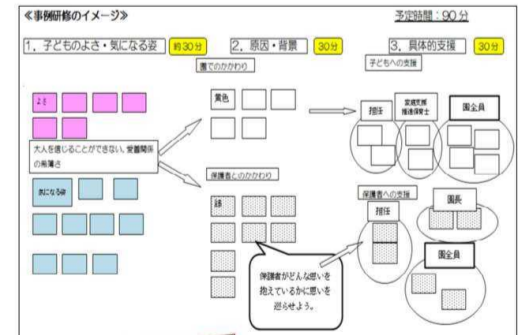
子どもの姿や課題、子どもの思いから、これまでの保育者の関わりや保育環境を振り返り、園で足らなかった支援や、保護者の状況や家庭での対象児への関わりで必要と思われることを考え、付箋や横造紙に出し合う。

3 原因・背景から、子どもと保護者への今後の支援を考える。（30分）

できるだけ具体的に、誰が、いつ、どのような場面で、どのような支援を行うかを出し合う。支援を整理し、明日から誰がどの支援を行っていくかを確認する。

※2～3か月後に、支援によって見られた子どもや保護者の変化について振り返り、残された課題や今後の支援を考え継続的に取り組むことで、子どもや保護者の成長が確認できます。

※親育ち支援地域リーダー等の優れた実践を聞いたり、可能な範囲で地域リーダーに園へ来てもらい事例研修を実施したりする取組は、保育者の親育ち支援力を高めることに効果的です。



- ・横造紙の使い方や書き方については、参加者が分かるように書き込めばよいでしょう。
- ・口頭で出てきた意見も書き込んでいくと、参加できなかった保育者も、後から横造紙を見ることで、支援の共通認識をもつことができます。

